

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム さわこ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391100070		
法人名	有限会社 やまざき		
事業所名	グループホーム さわこ		
所在地	〒026-0301 釜石市栗林町9-10-9		
自己評価作成日	令和4年7月31日	評価結果市町村受理日	令和4年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が自分のペースでゆったりと過ごせるよう心掛けています。自尊心や誇り、プライバシーに配慮し、礼節ある接し方を心がけ利用者様の思いに寄り添えるよう支援を行っております。利用者様が気持ちよく過ごせるよう施設内の掃除にも力を入れています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、沿岸の鵜住居地区から内陸に10kmほど入った農村部にあり、周辺は田畑でホールの窓から時折キツネや狸の小動物が見られ、利用者は楽しんでいる。長引くコロナ禍にあっても、職員は「安心と尊厳のある生活」という事業所理念の実践に心掛け、利用者個々の思いや意向の把握に努め、その思いに沿った介護を進めている。職員の年代層は幅広いが、チームワークが良く介護経験も豊富で利用者をもよく理解し、安心できるケアに努めている。災害対応にも力を入れ、ほぼ2か月毎に避難訓練を実施している。課題としていた看取りも訪問医師の協力のもとに昨年6月から取り組みを始め、職員の経験値を高めている。過疎化の進む地域にとって貴重な介護施設であることを事業所としてもよく理解しており、コロナ禍の後には積極的に地域との連携と交流を進めたい意欲を持っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年9月16日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム さわこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をもとに、利用者や職員の想い、考えを踏まえながら年間目標、計画を作成し、目標達成に向けて職員一体となり取り組んでいる。	開設当初からの事業所理念は事務室内に掲示され、職員会議等の際には折に触れて理念を活かしたケアについて話し合っている。また、より具体的な年度目標を定め、利用者の尊厳に配慮して、その意向等に沿ったケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治体に加入している。地域の行事など地域の方より教えていただいている。	自治会に加入し、定期的に広報等が配布される。地域のまとまりの強い農村部とは言え、コロナ禍以降は様々な地域の行事も中止となり交流機会がなくなっている。小学生の来訪に代わり職員の子ども達が訪ねてきている。コロナ以降を見据え地域との交流を様々検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染対策により運営推進会議が書面でのやりとりになっているが、施設で起きたことなどを詳しく記入し施設や認知症等への理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染対策により運営推進会議が書面にて意見交換、報告を行っている。	運営委員として、家族会代表や自治会関係者、消防団、婦人会、近隣の元看護師等が参加し、大変バランスよい構成となっている。この数年は、コロナ禍のため書面開催となっており、委員には活動報告等の資料を送付しているが、意見や質問等は殆ど寄せられず残念に思っている。	書面開催の場合は、委員から意見や質問を発信し易くする工夫が必要と思われる。返信用封筒の同封や項目毎の記入様式の工夫などにより、意見等が提出されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議だけでなく普段から地域包括担当者とは連絡を取り合い運営等について助言をいただいている。	委員として地域包括支援センター職員が参加しており、毎回資料を送付して運営状況の理解を得ている。日常的にもホームの空き状況や様々な相談を地域包括支援センターと行っている。市が主催する地域ケア会議等には職員が参加し、連携と交流を進めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご家族にも身体拘束を行わないことを説明し理解いただいている。身体拘束適正化委員会を設置し、定期的に勉強会、身体拘束の状況について話し合っている。身体拘束の対象となる行為についてはグレーゾーンも含め勉強会、研修会を行い日々のケアに活かしている。	職員3人で構成する身体拘束適正化委員会を2か月毎に開催し、職員への報告会でその内容を周知している。職員の研修会も2か月毎に開催しており、スピーチロックに関する内容が多くなっている。夜間に身体拘束に抵触しかねないような事象があった時には、朝の申し送り時に「もっとこうすれば良かった」等の反省点も交えながら細かく報告があり、その内容を職員で共有し対応方法を皆で考え、ケアの向上を目指している。	

事業所名 : グループホーム さわこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待マニュアルを作成し勉強会、研修会で学んでいる。毎月の会議で各利用者の支援方法を検討し、虐待につながるケアを行わないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これまでに成年後見制度などを利用したケースはないが必要に応じて利用できるよう確認をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては申し込みの段階で説明を行っている。改正等の場合には書面、口頭にて事前に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年1回開催していたが、コロナ感染対策により行えていない。日々の状態、状況を伝えながらご家族の意見や要望を確認するようにしている。その都度対応するよう心がけている。	家族には毎月のお知らせにより利用者の生活状況をお知らせしているほか、3カ月毎にホームの様子を掲載した「さわこ新聞」を送付している。面会時や通院時の来所の際に家族と面談しており、感謝の言葉が多い。利用者は「美容院へ行きたい」「〇〇が食べたい」など気にかかることを話してくれ、職員は本人の希望等を聞き出す努力を重ねている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回会議を開催し、職員からの意見を取り入れ運営できるよう努めている。普段の勤務通でも意見があれば出せるような環境づくりに努めている。	職員からは毎月の会議の他、毎朝の申し送り時でも多くの意見等が出されており、物干し場を増やすことなどの意見が出され具体化している。職員は30代から60代まで幅広い年代で構成され職場の風通しも良い。管理者との個別面談も年1回実施されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格に応じた給料水準にできるよう対応している。個別に労働時間や条件を話し合い、職場環境、条件の整備に努めている。		

事業所名 : グループホーム さわこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回内部研修を行い、日々の支援に活かしている。利用者個々の状況や状態に合わせた支援が行えるようその都度ケアの方法について話し合いをしている。施設外研修も案内を出し、参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の研修会への参加、他事業所と電話にて交流しネットワークづくりやサービスの質向上のため助言をいただいている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にアセスメントを行い、本人の生活歴や習慣、性格、要望、困っていることや不安なことなど聞き取りを行い、サービスにつなげ、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と交流できるようメール、手紙、電話などを利用し、ご家族の要望、不安に感じていることなど聞き取りを行いできる限りサービスにつなげられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族とご本人の関係性を見極め、必要なサービスをご家族、ご本人とともに考えていき、必要なサービスが受けられるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の要望等をその都度聞き取るようにし、自己決定を促していけるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子等を定期的に伝え、必要な意思決定やサービスにご協力いただいている。		

事業所名 : グループホーム さわこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等の訪問があった場合に面会が落ち着いて行えるよう配慮している。コロナ感染対策を行いながら、面会が行えるよう配慮している。これまで通っていた美容院、病院への通院も継続できるよう支援している。	コロナ禍であるが、家族のほかに近所の知人や友人がたまに面会に来ることがある。馴染みの美容院に出かける方がいるほか、多くの利用者は訪問の理容師が新たな馴染みとなっている。また、家族と通院で外出する際には馴染みの場所で食事を楽しむことも多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話でき、お互いに助け合いながら生活ができるよう声掛けや誘導を行っている。仲の良い方同士が楽しく会話できたり、普段交流がない方同士も活動を通して交流する機会となるよう働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて様子を伺い、必要な支援について助言を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から本人の意向や希望を確認し、必要な支援を検討しサービスの質の向上に努めている。	ほぼ全員が言葉で思いや意向を話せる状態にあり、職員は居室の掃除や入浴時等周りに聞かれないような場を利用し思いや意向の把握に努めている。「知人が亡くなったので拝みに行きたい」という利用者もいた。理念にある”自己決定を尊重する”を重視して対応し、笑顔で安心と尊厳のある生活ができるよう日々努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活の様子を把握し、本人が大切にしてきた事柄を継続し、安心して過ごせるよう配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化があった場合には申し送り等で情報の共有を行い、支援内容に活かせるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画の見直しを定行的に行い、必要な支援を職員間で話し合い計画を立てている。その内容をご家族、ご本人にもお伝えし同意をいただいている。	介護プランはケアマネを兼ねる管理者が原案を作成しており、入居時の暫定プランは数か月後に職員カンファレンスにおいて検討され正式プランとして決定している。プランの見直しは6か月毎が多く、その都度管理者がモニタリングを行って全員で検討している。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さわこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、業務日誌、申し送りノートを活用して様子の変化を情報共有し必要に応じて支援内容の変更などに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族の状況に応じて柔軟な対応がとれるよう心構えをし、職員間で情報共有、話し合いを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じて行事等の情報収集を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に通い続けられるよう、ご家族、ご本人と相談し、ご家族が付き添えない場合には職員が付き添いを行っている。	2人の利用者は月2回の訪問診療を受診し、他の7人は入居前からのかかりつけ医を継続して受診している。大半は家族が通院に付き添っている。利用者の健康管理は、週1回来訪する地元の訪問看護サービスを活用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状況の変化など、往診時や電話連絡などで相談し必要時には訪問していただいている。また、訪問看護サービスの看護師に週1回訪問していただき、健康観察や助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中も病状の確認を行い、早期の退院でも対応できるよう配慮している。日頃から連絡調整を行っている。		

事業所名 : グループホーム さわこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、認定更新時、身体状況が変わった際など早い段階より重度化した場合や終末期についてご家族と話し合いを行い事業所で可能が部分を理解していただきながら支援を行っている。	以前から課題となっていた看取りは、昨年6月から往診クリニックの協力を得て取り組みを始めている。”緊急時の対応マニュアル”を職員で共有し、誰もが対応できることとしており、これまで4人を看取っている。家族からは感謝の言葉をいただいております。職員も少しずつ経験値を高めている。職員の心理面のケアは訪問看護サービスの看護師の協力を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を行い、急変時の対応などが身に付けられるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っている。地域の消防団も含めて連絡網を作成し、万が一の場合の対応を定めている。非常用の食糧、日用品を備蓄している。	事業所の立地場所は、ハザードマップで浸水や土砂災害の地域指定には該当していない。避難訓練は火災想定訓練が年2回、水害想定が年2回、緊急連絡訓練が年2回行っており、職員の意識レベルは高くなっている。夜間想定訓練は薄暮時間に行うなど、実践的に行われている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各利用者との会話や生活歴などの情報から個人の習慣やプライバシーなどに配慮するよう心がけている。	理念に掲げる「安心と尊厳のある生活」の実践のため、利用者への声掛けは「さん」付けを基本とし、排泄誘導時の声掛けは周囲から気づかれないように、耳元で小声で行っている。また、着替えなども周りから見えないようにするなど、プライバシー確保に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者のその時々のお考えを支援できるように努めている。ご利用者様の表情や発言など気にかけて、自己決定ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースを大切に、遠慮がみられる利用者には声掛けを行い本人のしたいことができるよう配慮している。		

事業所名 : グループホーム さわこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や好みに合わせた服装を利用者と共に選んだり、ご本人が大切にしているおしゃれや習慣についても継続できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや季節に合わせた食事を提供できるよう献立を考えている。食後の片付けは是認で分担して行っている。	朝、昼、夕の3食とも職員が考えたメニューを提供しており、嫌いなものは出さないなど利用者の要望も反映されている。食材の調達は、地元のスーパーを利用している。利用者は、食材の皮むきや食器拭きなどを手伝っている。お茶会のパンケーキ作りでは男性の利用者が楽しそうにケーキを焼く姿が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの方の食事摂取状況に合わせて食事量や形態に配慮し提供している。水分もこまめにとれるよう促しを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、義歯は每晚ポリドント洗浄にて清潔を保持している。口腔ケアは個々の能力に応じた支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して一人一人の排泄パターンを把握し、必要時には声掛け等を行っている。	排泄はチェック表等を活用して、適時に声掛けや誘導を行っている。布パンツで自立している方が3人、他はリハビリパンツを使用し、全員がトイレを利用し、入居以来現状維持が続いている。夜間のポータブル利用者は1名である。失禁の際には、特に心情に配慮して「大丈夫ですよ」などと優しく声掛けし対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表でどの程度排泄できているか把握し、個々の状況に応じた対応(服薬や水分摂取)を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決めてはその日の状況等によって順番や日にちを変更するなど対応している。	入浴は火・水・土・日曜の午前を基本とし、入浴前に脱衣所を暖めるなど環境を整えてから気持ちよく入浴できるよう心掛けている。利用者の多くは風呂場へ行くのを拒むが一旦湯船に浸かると気持ちが落ち着き、歌ったり普段話さないことも話してくれる。水虫のある利用者が大半であり、湯上りマットは個別のバスタオルを使用している。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さわこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中のレク活動、体操などで身体をうごかせるように工夫している。昼食後や疲れたときなど休みたいときに休めるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者毎に薬ファイルを作成いつでも確認できるようにしている。服薬チェック表を利用し、内服状況、本人の状況から主治医、薬剤師と相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴などからご利用者が好む活動を行えるよう支援している。ご家族とも相談し本人が好む飲食物を準備し飲食していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響で遠出はできていないが、馴染みの美容室へ本人が行きたいときに通う、庭先を散歩する、草刈りを行うなどご家族様にも協力していただきながら外での活動も取り入れている。	コロナ禍のために外出機会が大きく減少しているが、近所でのお花見や、紅葉見物のミニドライブや近くの産直ドライブを続けている。天気の良い日には外気浴やお茶飲みを楽しんだり、施設周辺の散歩も楽しんでいる。家族付き添いの通院時に食事を楽しんで来ることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所金庫にて保管している。欲しいもの、必要なものがあればご本人と相談しながら利用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった時は電話できるよう支援している。また、電話や手紙がきた場合には取次ぎをサポートし個々の外部との関係性が継続できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに季節を感じられるようなディスプレイを利用者とともに作成し展示している。行事の写真や小学校からの手紙なども展示し、思い出し振り返ることができるようにしている。	玄関先のホールから左右に延びる廊下や居室は清潔感があり、ホールの天窗からは心地良い光が差し込み、時々窓の外にキツネやたぬき等の小動物を見ることができ楽しんでいるという。ホールの壁には四季に応じた飾り物があり、テーブルでは利用者同志が会話したりテレビを見たりゆったり過ごしている姿が見られた。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さわこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは座席を決め座っていただいている。時には別の座席に座り利用者同士で会話を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や写真、テレビ、ご位牌などを居室におき、それぞれの生活にあった居室づくりを行っている。ご利用者の状態に応じてベッドやタンス、所持品の配置を工夫し、安心安全に過ごせるよう配慮している。	8畳ほどの広さの居室は床暖でベッド、クローゼット、ミニタンス等が備え付けとなっている。故人の遺影や位牌があつたりテレビが置かれている部屋もあり利用者それぞれ生活しやすいよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室にはネームプレートを取り付け自分部屋、トイレ、脱衣場がわかりやすいようにしている。廊下には手すりを設置し、必要時には使えるようにしている。		